

平成30年度

第1回文京区アカデミー推進協議会

会議録

文京区アカデミー推進課

日 時：平成30年5月22日（火） 18:29～20:10

会 場：文京シビックセンター5階 区民会議室C

委 員：会議資料名簿のとおり 欠席：2名 奥村委員、海藤委員

事務局：小野アカデミー推進部長、竹越アカデミー推進課長、鈴木観光・国際担当課長
木村スポーツ振興課長、日比谷オリンピック・パラリンピック推進担当課長

会議内容

○水越会長 皆さん、おそろいいただきましてありがとうございます。

これから、「平成30年度第1回文京区アカデミー推進協議会」を始めたいと思います。

昨年の夏にお会いして以来かと思えますけれども、基本的には、2年の任期という形で委員をお願いされています。基本的には、昨年と同じような形で進めるということです。ただ、昨年何をやっていたかということをお自身もちゃんと思い出すのに少し時間がかかると思えますので、きょうは皆さんの改めての自己紹介や、あるいはやるべき内容の確認といったことをしながら進めていきたいと思っています。

後ほど委員の先生方にも自己紹介をしていただきますけれども、まずは、アカデミー推進部で異動の方もいらっしゃるということですので、ご紹介をそれぞれお願いしたいと思います。

○竹越課長 皆さん、こんばんは。

改めまして、私ども事務局のアカデミー推進部内の異動等がございましたので紹介させていただきます。まず、新任のアカデミー推進部長兼オリンピック・パラリンピック担当部長の小野でございます。

○小野部長 小野でございます。

委員の皆様には、昨年同様となりますが、非常にタイトな期間での点検評価となります。すみませんけれども、どうぞよろしく願いいたします。

○竹越課長 昨年度から引き続き、観光・国際担当課長の鈴木です。

○鈴木課長 鈴木でございます。どうぞよろしく願いいたします。

○竹越課長 昨年度から引き続き、スポーツ振興課長の木村です。

○木村課長 木村でございます。どうぞよろしく願います。

○竹越課長 新任のオリンピック・パラリンピック推進担当課長の日比谷です。

○日比谷課長 日比谷と申します。よろしく願いいたします。

○竹越課長 新任の真砂中央図書館長の川崎です。

○川崎館長 川崎と申します。よろしく願いいたします。

○竹越課長 最後に私が昨年度から引き続きですが、アカデミー推進課長の竹越です。どうぞよろしく願いいたします。

それではあわせて、事務局の担当職員及び各事業の関係の係長を紹介させていただきます。

す。

○萩谷係長 それでは、アカデミー推進係の職員を先に紹介させていただきます。

担当の宇民でございます。

○宇民係員 宇民です。よろしくお願いいたします。

○萩谷係長 大河原です。

○大河原係員 大河原です。よろしくお願いいたします。

○萩谷係長 大澤です。

○大澤係員 大澤です。よろしくお願いいたします。

○萩谷係長 私、アカデミー推進係長の萩谷と申します。昨年に続きまして2年目ということですので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、各係長につきましては自己紹介をお願いいたします。

○鈴木係長 アカデミー推進課の文化事業係長としてまいりました。鈴木と申します。よろしくお願いいたします。

○川口室長 文化資源担当室ふるさと歴史館室長の川口と申します。引き続きよろしくお願いいたします。

○中村主査 4月にアカデミー推進課国際交流担当主査に着任いたしました中根と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○小野寺主査 観光担当の小野寺と申します。昨年度に引き続きまして、どうぞよろしくお願いいたします。

○加藤主査 スポーツ振興課施設等担当の係長をしております加藤と申します。私も昨年度に引き続きまして、本年度もどうぞよろしくお願いいたします。

○小菅係長 スポーツ振興係長の小菅と申します。よろしくお願いいたします。

○竹越課長 職員の人事異動は以上でございます。名前等は後ほど見ていただく分科会の名簿にもありますので、後で確認していただければと思います。

事務局からの挨拶は以上です。

○水越会長 ありがとうございます。これからいろいろお世話になると思いますけれども、どうかよろしくお願いいたします。

それでは引き続いて、きょうはもろもろの資料が配られておりますけれども、資料のことと、きょうお集まりの方の出欠状況について、引き続き竹越課長から説明をお願いいたします。

○竹越課長 それでは、出欠状況について確認をさせていただきます。

本日は、奥村委員と海藤委員が欠席ということで事前に御連絡をいただいております。あとは、お席のほうに配らせていただいております名簿及び座席表のとおりになっていきますので、御参考にしていただければと思います。

あわせて、配付資料の御案内をさせていただきます。

委員の皆様には、事前に資料6点を郵送させていただきました。

まず、「平成30年度 第1回文京区アカデミー推進協議会 次第」です。

右肩の上に囲み括弧で資料1と書いてございます、「文京区アカデミー推進計画の点検・評価について」。

資料2「平成30年度 文京区アカデミー推進計画 点検・評価 スケジュール」というA4の横のものです。

資料3「文京区アカデミー推進事業調査結果」、少し厚目の冊子になっています。

参考資料1として、委員の皆様の名簿。

参考資料2として、要綱をつけています。

また、郵送はしませんでした、本日お席にアカデミー推進計画を参考に置いてありますので、もしお持ちでない方はそれを御参考にしていただければと思っております。

資料の過不足等はございますか。よろしいですか。

説明は以上でございます。

○水越会長 ありがとうございます。

それでは、我々のほうも改めて自己紹介をしていきたいと思っておりますけれども、久松先生からこういうふうに戻って、最後に私がやるようにいたします。適当な長さでお願いいたします。

○久松副会長 久松でございます。

去年に続きまして、よろしく願いいたします。座らせていただきます。

資料の御紹介がありましたが、推進計画の82ページ、83ページのところが見開きで推進体制と評価の考え方ということでございまして、私も改めて見させていただいて、PDCAの「CA」の部分やるのだなということで責任を実感しております。よろしく願いいたします。

○田中委員 田中と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

分野担当としては、生涯学習のところを担当させていただきます。また、分科会でそれぞれの委員の方にお世話になりますけれども、全体会でもいろいろな御議論をいただけるとありがたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○増田委員 増田純でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

文京アカデミア講座選定委員会から参りました。どうぞよろしくお願い致します。失礼いたします。

○塩見委員 塩見と申します。文京区生涯学習サークル連絡会の代表をしております。よろしく願いいたします。

○井上委員 皆様こんにちは。井上充代と申します。

文京区スポーツ推進会会長としてまいりました。よろしく願いいたします。

○高澤委員 シエナ・ウインド・オーケストラ事務局長をさせていただきます高澤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○牧野委員 公益社団法人宝生会、宝生流の能楽の事務局の牧野でございます。どうぞよ

ろしくお願いいたします。

○町田委員 文京区の観光ガイドをしております町田菊男と申します。よろしくお願いいたします。

資料にもございますけれども、昨年度は1,700人の方を25人のガイドが御案内したのですが、一昨年と大分違うところは文京区に学びに来る方がふえています。文京区で学ぼうということで、2020年のこともあるので明らかにガイドの勉強をしようとする、ガイドにこれからなろうとする人も随分ふえてきております。そんな形で文京区というのは学びの街なのだなという気がいたしております。よろしくお願いいたします。

○佐藤委員 佐藤美智子と申します。インタープリターの会員をしております。昨年に引き続き、ことしもよろしくお願いいたします。

○黒木委員 今回も公募で来ております黒木です。よろしくお願いいたします。

○佃委員 国際交流団体ということで、公益財団法人アジア学生文化協会の常務理事の佃です。引き続きよろしくお願いいたします。

○荒木委員 東京観光財団の荒木と申します。ことしも引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

○白井委員 観光協会の副会長をやらせていただいております白井と申します。今回で3期目になると思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○水越会長 ありがとうございます。

東京大学の水越と申します。私が会長を務めさせていただきますが、後ほど議論いたします担当分野としては、スポーツと文化芸術のところをやらせていただくことになって思います。先ほど、最初に口火を切っていただいた久松さんが観光と国際ということになります。2年目になりますので、あの方と去年お会いしたなという形だと思っておりますけれども、これから皆さんどうかよろしくお願いいたします。

それでは、ここから改めての部分もありますが、推進協議会の運営面の中身について話を進めていきたいと思っております。

事務局から説明をお願いいたします。

○竹越課長 それでは、最初に会議の運営について確認をさせていただきます。

原則、会議の運営につきましては、昨年度と同様なのですが、もう一回だけ確認をさせていただきます。昨年度当初に決めたとおり会議は基本的に公開になります。

会議記録も、この協議会そのものは全文記録の公開となっています。

傍聴の方も入ることができるということになっています。

協議会の開催につきましては、場所、日時、傍聴の定員などを区のホームページに掲載して、周知してまいります。傍聴の定員につきましては原則として10名、受付は会場において先着順に行ってまいります。

傍聴者の禁止事項というのは、いわゆる一般的な禁止事項になっています。

協議会の撮影、録画、録音等は認めてございませんが、あらかじめ会長の許可を受けた

場合は、この限りではないとしております。

資料の取り扱いにつきましては、本日お配りの資料もそうですけれども、傍聴の方がいらっしゃれば、その方にも配付します。また、会議の終了後からおおむね1週間以内にシビックセンター2階の行政情報センターに会議資料として配架する予定でございます。あわせて、区のホームページで公開する予定になっています。

会議録の取り扱いにつきましては、先ほどもお話ししたように協議会は全文記録方針によりまして、発言者の氏名を記した上で公開をするということになっております。そのため、内容の正確を期すために出席された委員全員に事前に確認をとらせていただきます。そのために公開までには、おおむね2か月程度を要しておりますのでよろしくお願い致します。また、分科会につきましては、自由な議論を深めていただくために概要を要点記録として取りまとめる予定でいます。こちらについても、発言の趣旨を正確に記すために出席された委員の皆さんには、事前に確認をとるようにしておりますので、こちらもおおむね公開までは2か月程度を要しているということになっております。

その他、協議会の運営につきましては、その都度この協議会で必要事項を定めていただくとなっております。

以上が協議会の運営全体についての御説明になります。

○水越会長 改めてそういうルールの上で進めるということですが、皆さんの方から何か確認したいこと、質問等があればおっしゃっていただければと思います。

分科会のときにも傍聴の方は入れるのですか。

○竹越課長 分科会も傍聴が入ることは可能です。

○水越会長 あと、私、忘れてしまったのですが、分科会をワークショップ形式でやって、附箋や何かが出ますね。あれ自体も写真とかで記録されていきましたね。

○竹越課長 事務局は記録をしておりますが、一般の方は記録ができないように取り決めとして決めております。

○水越会長 そのほかに何かございますか。

それでは、この協議会の進め方に関しては、今御説明していただいたとおりで進めるということを改めて確認をさせていただきたいと思います。

続きまして、評価の作業の概要につきまして、再び竹越課長に説明をお願いしたいと思います。

○竹越課長 それでは議題に沿いまして、これから数分かけてアカデミー推進計画の点検評価のやり方について御説明をいたします。

御質問等いただいた後にちょっと厚目の冊子の事業調査結果について、私どもの方で説明をさせていただいて、御意見をいただければと思っております。

まず、資料1の「文京区アカデミー推進計画の点検・評価について」及び資料2「平成30年度 文京区アカデミー推進計画 点検・評価 スケジュール」というものをあわせてごらんいただきながら、御説明をさせていただきますのでよろしくお願い致します。

計画そのものは、先ほど久松副会長さんがお話しいただいた冊子、せっかくお席に用意して御案内いただきましたので、冊子の82ページ、83ページで先ほど御指摘いただいた部分ですが、83ページの「2. 評価の考え方とPDCAサイクル」に基づいて、この会議体で検討しているところでございます。

この計画に基づいて、実際の計画がどういう形で進捗されているのかを区から報告をさせていただいて、その報告に対して、皆さんからそれぞれの知見に基づいて、いろいろな御議論をいただいて、最終的な協議会の考え方のまとめというものを出していただき。区はそれを受けて、次の年度の予算編成の時期に合わせて、いろいろといただいた御意見を反映させていくような考え方になっております。それが「1 概要」の説明に書いてあるところでございます。

「2 協議会の構成について」は、名簿のとおり16名の委員で構成してございます。全体のスケジュールなのですが、資料2をごらんいただきまして、その表の中の色がついたところ、右側の色のついた「アカデミー推進協議会」の「協議会」というところの5月にあります「第1回協議会（5月22日）」。後ほど日程の説明はさせていただきますが、きょういろいろ御議論いただいた上で、6月、7月にかけて、この分科会において何度か御議論をいただく。日程はもう決めていますけれども、7月に2回目の協議会を開催して、協議会としての御意見をとりまとめていただく。

お席のほうに、昨年度の協議会の御意見をとりまとめていただいているものを参考に置いていますので、それは後ほど参考にござんいただければと思います。

その協議会の御意見を「アカデミー推進本部」という、この表で言う左側ですが、これは区の組織になりますけれども、本部は区長が本部長の会議体です。この場でいただいた御意見をいま一度それぞれの事業課に落とす。それぞれの事業課は、いただいた御意見を参考にしながら、次の年度の予算編成の参考にさせていただくという流れになっております。一番右側に書いてございますそれを9月の議会に報告をして、議会の議員さんたちからもいろいろと御意見をいただくという形でのスケジュールになっておりまして、昨年もそうなのですが、この会議自体が実質5月から7月までの約3カ月で完結させるという意味では、ござんのとおり日程的にも非常にタイトな会議になります。

特に分科会の進め方なのですが、昨年度は3つの分科会に分かれて、会長、副会長、田中先生にそれぞれの分科会の座長を持っていただき、分科会を進めていただきました。それぞれの分科会で内容によっては濃淡がありますけれども、分科会としては、全体としてそれぞれの事業一つ一つを見ながら、それぞれ皆さんが自由な御意見を出し合いながら、附箋を使ったりしながら模造紙に張りつけたりして、ブレインストーミングのような形でいろいろな意見を出し合いながら、考え方の方向性を見出していくような形で取りまとめていただくといった意味では、分科会は割と自由にざっくばらんに御意見をいただきながら、2回目の分科会でなかなか一つのゴールに結びつけるのは難しい部分があるので、御意見として取りまとめてもらうような形で持って行っていただきたい

と思っております。

ですから、分科会の進め方としては、昨年度同様で模造紙、附箋を使いながら、皆さんから自由に御意見をいただくという形で進めていただければと思っております。全体の流れとしてはそういう中で、お席のほうに用意してありますけれども、最終的な昨年度の協議会の進捗状況の評価についてという取りまとめの冊子みたいになったものを用意していますが、昨年度、皆様方にまとめていただいたものがこういう18ページ物の形で冊子になって、これが評価の結果という形で協議会の最終的なでき上りのものということになります。

全体の説明は以上でございます。

○水越会長　そういうことです。

やや繰り返しになりますけれども、以前はもう少し長い時間をかけて、これをやっていたのですが、結局、評価を出しても、予算編成で議会に間に合わないということがわかりまして、それだったらいつなのだ、8月、9月だと。つまり、夏前にしっかりまとめて、アカデミー推進課の方々がそれを持って、もろもろの折衝に入れるようにしないと、結局その年度の前の年度でやったものを生かして、次の年度のことを考えるためにならないですねということで、数年かけてこういう仕組みがようやく編み上がってきた、住民参加型でつくったという感じがしますが、そういう形でございます。ですので、皆さんの御記憶もあるようにそういうことのでございましたので、5月から7月になると短いことは短いのですが、この期間で一気呵成にやるということになります。

後でまた説明をしていただきますけれども、実は文京区は非常に盛んにいろいろな活動をなさっていて、それを講座のレベルまで一々おりにってやると、とても1年ではやり切れないぐらいのことであると。全体でどうなのだというのをこの計画に照らして、今はどうかということをしづかみにして、次年度に向けて改善をしていくということを図る方向でやっていく。逆に言うと、すごく細かく見ていくということは、一定のところでも断念をしながら進めるということが5月から7月までやること的前提になっております。これはどちらかと言うと、異動されてきた課の方に私が申し上げているような感じのことなので、そういう形で進めていくということで今は御説明をいただいた次第です。

5月と、次は7月、約2カ月後にお会いする。その間に分科会が3つに分かれて、それぞれできればわいわいと言いながらざっくばらんに話をしていくという形になっているということでございます。この進め方に関して、特に昨年度のことも含めて、皆さんの方から何か御意見、御質問等があればお願いできればと思います。よろしいでしょうか。

事務局の方にお伺いしたいのですが、この評価が出て、予算編成とか議会とかで課題は山積なので、これだけがたくさん話し合われたとは思いませんけれども、よい反応、悪い反応を含めて、何かあったのですか。

○竹越課長　皆様の席に置いてあります「平成29年度　文京区アカデミー推進計画進捗状

況の評価について」という昨年度のまとまったものを参考に見ていただいて、17ページに会長が全体の総評としてまとめてくださっている部分がありますが、全体で言えることは、去年の会長にも非常にいろいろお話ししていただきましたが、区としてはいろいろな制作物をつくって、いろいろな形で区民の皆さんに事業の内容を周知してやっていて、印刷物もいっぱい出す、ポスター、チラシもいっぱい出している。それは非常に評価できると。ただ、今のスマートフォンの普及だとか、あらゆる事柄がインターネットで接続されている現在の状況を踏まえれば、従来の形プラスアルファの方法があるだろうということとか、より多くの区民の人にイベントに参加してもらうような住民参加型で展開するやり方について非常に力説して書かれておまして、それはほかのところを見ても一定の評価はしていただいておりますが、それぞれの分野のところでも幾つかの課題をいただいております。

それぞれの事業課でそういう課題を受けて、実際の広報活動に工夫をしたり、手前みそな話になりますけれども、うちの課で言えば文京バックアップという新たな大学生を中心として取り入れた、SNSを使っての事業展開を始めたりとか、区民の人を交えたワークショップ形式の事業を歴史館でやってみたりとかの展開はしております、それはほかの事業課でも、同じような形で参考にしながら展開をしているのかなと思っております。ただ、この場でこの事業とこの事業はそうだよという答え方はできませんが、きっとこれから御説明いたします調査結果を丹念に見ていくと、そういう違いはあるかなと思っております。

議会の方からもこの冊子の内容を読み込まれた議員さんからは、広報の仕方について、もう少し、非常に深くという御意見もありましたし、逆に、評価そのものは数値化していないのです。数値化しないというのは最初に会長、副会長、また、学経の田中先生からいろいろ趣旨を説明させていただいて、数値化しないでこういう文章で取りまとめたのですけれども、区議会の議員さんの委員の中には、数値化したほうがわかりやすいという御意見もありました。それについては、数値化しないという前提で進めていると私どもは回答いたしました。全体としてはそんな流れになります。

○水越会長 ありがとうございます。

委員の方々、我々は今、全体の仕組みを確認して、7月までのこういう日程だということを確認しております。これは大丈夫だと思うのですが、細かいことは別途検討かと思いますが、大まかに昨年度を踏まえた上で、何か御意見等があればぜひお願いしたいと思います。

久松先生、田中先生、何かございますか。

○田中委員 大丈夫です。

○水越会長 基本的には、今お話しいただいた段取りでことしもやっていくということで進めてまいりたいと思っております。よろしいですね。

それでは、点検・評価のことについて、説明をお願いしたいと思っております。

○竹越課長 それでは、資料3「文京区アカデミー推進事業調査結果—平成30年5月—」

の資料について、簡単に御説明をさせていただきます。この読み方で皆さんが共通理解、同じ認識を持っていないと、今後分科会をするときにやりづらくなってしまいますので、少し時間を頂戴して、丁寧に説明をさせていただきますので、何か気になる点があったら後で教えていただければと思います。

まず、1ページ目を見開いていただきますと、【凡例】として四角い表がありまして、目標が1、2、3、4とあって、その目標がどのぐらいのものかという書き方をしております。これは何かといいますと、昨年度も御説明しましたが、計画の冊子の7ページをごらんいただければと思います。もともとこの計画は全ての事業に対して、環境、人、つながり、価値の4つの共通目標のいずれかに該当しているものでございまして、それぞれの事業がこの共通目標のどこに該当しているかというのを掲げております。例えば一番上の「1 生涯学習」の「1. いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実」については総事業数が88あります。そのうち「目標1」に相当するものが75個あって、「目標2」に相当するのが42個、「目標3」に相当するのが52個、「目標4」に相当するのが16個、これは必ずしも全部別々ではなくて、2つ該当しているものもあれば、1つしか該当していないものもあり、3つ該当しているものもあり、4つ全部該当しているものもある。この辺の考え方はそれぞれの事業課が考えた書き方になっております。

全体の計画が計画の冊子の12ページ、13ページにあります「4. 各分野目標と基本的な方向」ということで、全体でこういう構成になっているのですけれども、このうちの分野と分野別目標のそれぞれに分けて、最終的な報告書をまとめているという形になります。

1ページの最初のところだけを事例的に御説明しますけれども、1番、1-1-(1)と書いてございます。これが計画の冊子で言うところの12ページの「1 生涯学習」の緑色の四角の枠の1-1-(1)というのは、1が「生涯学習」、1-1が分野別目標の「いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実」と。(1)というのは基本的な方向の「多様な講座や学習機会の提供・充実」ということで番号が振ってある。

1ページの表側の左から3つ目の「頁」というところがあります。これは、計画の冊子の18ページに「文京アカデミア講座」というものが掲載されていますという意味です。その横の実施計画、事業番号に1番で言うと学01-02と書いてありますが、これはもともと区の基本構想実施計画の中で掲げられている番号を載せてございます。皆さんには、基本構想実施計画はお配りしていませんが、区の大もとの計画の中にもこれは入っているということがわかるようになっていきます。事業名は「文京アカデミア講座」、概要はその事業名の内容の概要を示しております。

字が小さくて恐縮なのですが、29年度実績は平成18年度から始まった事業だよ、文京アカデミア講座は77講座ありますよ、受講者がこれだけありましたという形での説明が書いてございます。これは昨年度既に皆様にお配りして、いろいろ御議論いただいた冊子はここが「28年度実績」となっております。ですから、細かいことを言うようですが、前回のものと見比べると、事業がどんなふうに変ったかというのが多少なりと

もわかるようにはなっておりますが、ここで平成29年度の実績が出ている。

この事業は、先ほど御説明した計画書の7ページにある4つの目標のどれに該当するかというところと言うと1番と3番、これは「環境形成：充実した時間を過ごせる環境形成」及び「つながりの構築：活動を通じた多様なつながりの構築」に該当しているということになっております。

その横の特記事項は、それぞれの事業課がその事業に対しての効果と課題、平たく言うと、よかった点と、課題として今後考えなければいけない点などをまとめてございます。ここは「年間を通して、バラエティに富んだ講座を提供することができ、アンケートにおいても受講生から高い講座満足度が得られた」と。課題としては最後の・に書いてありますが、「講座によって応募に偏りがあり、定員に満たないものもあるため、内容やPR方法等の工夫などにより、受講生の興味をひくことが必要である」と。

こういう書き方をされていて、その隣は担当課として参考にアカデミー推進課、実際には、公益財団法人文京アカデミーが行っているの、担当係のところは実態としてやっているところが書かれております。表の見方はそういうふうに見ていくことになっております。

先ほど、手前みそな話をしまして、スマホをもう少し使ったら、今の時代に合わせてやったらという御意見を受けてではありませんが、昨年度の新規事業として、ちょっと飛んで13ページの115番を見ていただきたいのですが、115番のところには体系のナンバーとして、1-2-(3)、2-3-(3)、3-1-(3)と3つ書いています。これは何かというと、決して一つのところの枠だけに入るのでなく、先ほどの計画書の12ページ、13ページで説明しましたが、1-2-(3)というのは「1 生涯学習」の「2. 一人ひとりの学びの成果を活かす機会の提供・充実」の中の「(3) 人材育成・活用の推進」にかかわる。

2-3-(3)は、「2 スポーツ」の「3. スポーツ活動を支える環境の整備」の「(3) スポーツボランティア等の活動支援」にも関係している。

3-1-(3)は、「3 文化芸術」の「1. だれもが文化芸術に親しむことができる環境づくり」の「(3) 多様な主体・媒体による情報提供の仕組みづくり」にも関係している。その下には「新規追加」と書いてありますが、前回にない新しいものだという書き方になっております。新しいものはこういった形で「新規追加」となっております。

13ページの一番上の110番はいっぱい関係しているところがありますが、これは「オリンピック・パラリンピック子ども新聞」を事業としてやっていますということで、「新規追加」であるというところで、関係しているところの体系がいっぱい登場してくるということになります。こういう形で全体に延べ463の事業を記載してございまして、それぞれの分科会に分かれて、生涯学習の分科会ですと事業総数167の事業全体を見ていただくということになります。

スポーツ・文化芸術の分野ですと、スポーツの56事業と文化芸術の51事業、合わせて107の事業を見ていただく。

観光・国際交流の分野ですと、31の事業と15の事業を合わせて46の事業を見ていただく。ただ、ここは延べ数ではないので、実際はもう少しいろいろなところに出てきます。事業の素数というかそのものの数は320の事業になります。それがさまざまな分野にも出てくることによって全体で463の事業になるということです。

多分どの分科会も、この調査結果を参考にまずは一つ一つ見ていっていただくのですが、内容を一件ずつチェックするというよりは、そのグループの中で一つずつ皆さんに事前に見ていただきながら、気になるところの御意見をいただいて担当課で答えるような形で、また、さまざまな出てきた意見を模造紙に附箋をつけて、それぞれいろいろな意見を出していく。そんな中で、ブレインストーミングをしながら方向性を見定めていくという分科会の進め方になるのかなと思っています。

全体の説明は以上でして、あとは先ほど私が一個一個御案内したような見方になるというところです。

○水越会長 ありがとうございます。

委員の皆さんから、何か御質問等はございますか。

久松さん、何かございますか。

この調査の結果をちゃんとまとめてもらうのがまずは大変だったはずで、これでもなるべく事務局の方が二度手間にならないようにはなっていたはずなのですが、これをこういうふうにしてもらうこと自体が本当に大変だったのではないかなと思います。大変ありがとうございます。

一方で我々としては、どうしても現場で運営に当たっている人間ではないので、現場感がどうしても欲しいわけですが、これより現場感があるものまでおりにいくということは、ワークショップのときに担当の係長の方や、あるいはもろもろのチラシ等々を見せていただいたりして、それで見るとしかないなという、必要に応じて具体的な話をさせていただくということになるかと思いますが、事務局の方と我々のニーズの間でこの資料ができていくということかと思いますが、目標に関しては、もう何度も課長から御説明があったように幾つか重なっているものもあるしということになっているというわけです。

お願いします。

○田中委員 今、言うべきことかどうかがわからないのです。

○水越会長 どうぞ、お願いします。

○田中委員 事業そのものは、恐らく昨年と今年で抜本的には変わっていないのではないかなという気はするのです。昨年のそれぞれの分科会で、ラベルなども張りながらかなりきっちりと議論をしたと思うのです。その成果がきょうのお配りいただいている18ページのこれと、私の手元には生涯学習の分科会の記録がありますけれども、それぞれのところに御自分の分科会のものがあると思うのです。下手をすると、去年と同じようなものを見て、また同じような議論をして、苦労してやってみたら去年と同じだったという可能性もあるので、できましたら分科会の最初の議論のときに事務局のほうから、去年から今年ま

でに何が事業、全体として変わったかという話を少ししていただくとともに、我々と事務局とが一緒になって、去年はこれだけの事業を評価して、最終的にこういう評価結果にしたのだねというのを最初の時間に確認し合って、この1年間の事業の変化あるいは社会情勢の変化によって、何か違った点があるかどうかというところから議論ができるといいかなという気が今いたしました。

○水越会長 何かございませんか。

○久松副会長 一つ質問で、意見については田中先生に非常に同感なのですが、私はたまたま去年の調査結果を持ってきていまして、去年は大きかったのだな、老眼になってきたので見にくいやと思いつつながら見ているのですけれども、観光のところは少し違いがあって、これは、例えば1年置きにやっているからこういうふうになっているのですよという説明でももちろん結構ですし、ある方向性がある、こういうふうにしたのですよということを平成28年度に比べてこういうふうになりましたと。もしくは全然変わっていませんというものでもいいのですけれども、そういうところの話を分科会の最初のところでしていただくと、全く変わっていないというのだったら、それはそれ相応でやりようもあるわけですし、変わっているところであれば、そこをフォーカスするというのもあるのかなと思います。

これも田中先生と同じことですが、我々が出した総括というものに対して、どんなふうに御担当の方々は考えているのかということで、同じことをもう一回言うかどうかということもあるわけです。そうすると、いろいろな時間の使い方があるかと思いたすので田中先生に同意いたします。

小さな質問は、そもそも調査結果というのは、情報公開でおのずと最終的にはウェブに載っていくということですね。

○竹越課長 はい。

○久松副会長 そうすると、ある意味ではこういうことを研究する人がこれを両方ダウンロードして比べて、区の文化行政というのはどういうふうに行われているのだと。細かいところでのまさに一次資料としてなる。ある意味で、我々はそういう歴史の審判にも耐えなければいけないというところもありますので、気を引き締めてやりたいなと思いたす。

以上です。

○水越会長 ありがとうございます。

この後、我々は少しだけになりますが、分科会に分かれて挨拶、日程確認や進め方について話し合うことになりまして、今、お二人の先生から言っていたことは重要で、どのグループも大事なことです。御確認いただいて、ありがたかったかと思いたすが、そのほかの委員の方々から何か御意見はございますか。

まず、やや事務局の側に立って言うと、300とか400という事業を相手に300人の人がいるわけではなくて、すごく少ない人数でやっていらっしゃるし、長い伝統のある講座のようなものもあれば、新しい事業もあり、例えばスポーツのための体育館の予約等々であ

るとかさまざまな業務があるわけです。そうすると、仮に100のことをなさっているとする
と、この計画に照らすと、この100について70はこのままでいいけれども、30はこうしな
いみたいな評価をある意味で我々がしているわけです。だけれども、実際は30ができない
ですよ。なぜかという、ロジスティクスが足りないのだからそうはいかなくて、5動いたら
何とか動いたなというところなのではないかなと感覚的に言いますけれども、そう思うの
です。

事務局のことを考えながら言うと、少しずつだけれども変わってきているので、それは
よくやったという評価があるわけです。ただ、逆に言うと、先ほどの久松さん、あるいは
田中先生もおっしゃいましたけれども、下手をすると去年と数もほぼ変わらないし、新規
事業の数はそんなに多くないわけで、同じようなことになるかもしれないわけです。でも、
実のことを言うと、少しずつ頑張っているのだから優しく言おうということが事務局のた
めになるかというところではなくて、ここで批判的に言っておいたほうが予算を確保し、
事業を実施するためには役に立つはずなんです。それで言うと去年と今年と変わらなくて、こ
れは課題だよというところは逆にきちんと言っておいたほうが現実を反映するということ
なので区のためにもなりますし、ここはうまずたゆまず、言うべきことは言うし、評価す
るところは評価するというあんばいというのが我々委員の側に求められているのかなと思
います。

先ほど、引用していただいた言葉、総括のところなどもかなりはっきり言っていて、今
までのものもいいのだけれども、今までのものだけではだめだと言っているのです。だめ
だと言っているが、そうは変わらない、変われないですね。だけれども、変わったところ
は評価するけれども、変われないところを変われないだろうが、しょうがないなというの
で何も言わないと予算もつかないし、変化のしようもないわけですから、言うべきことを
ちゃんと我々は言う。今回も事務局のお世話になりながら我々はやっていますけれども、
形として我々は独立をしているわけですので、きちんと健全な評価をしていくということ
で、場合によると繰り返しが多いかもしれませんが、それは繰り返しだねと思いつつ、淡々
とポジティブにやっていくということをお願いしたいと思えますし、私もそういうふう
にしていきたいと思っております。

それでは、この会の意義と仕組み、段取り、資料にすべき昨年度の評価であるとか、今
年度の調査結果というものについての御説明をざっとしていただきました。その上で、今
お話があったように去年からどう変わったのかといったことは、各分科会の冒頭でいきなり
附箋などを書き始めるのではなくて、言っていて、それも参考にしながら進めて
いきたいと思えます。

もう一個だけ、2回の分科会の進め方については、これまで大枠で附箋のようなもの
を用意し、課題と評価できるところなのかを分け、それ以上のところはそれぞれのスポーツ
ならスポーツ、あるいは国際交流なら国際交流の文脈というものがあるので、それぞれで
やってきていただいたわけですがけれども、具体的なグループワーク的、ワークショップ的

なやり方を進めるに当たって、何か懸案なり課題なりございますか。やってみないとわからないということもあると言えばあるわけなのですが、いろいろ出でいただいている事務局から何かございますか。

○竹越課長 先ほど、田中先生の御指摘をいただいたように、確かに前回と今回はどう変わったのかというのが概略としてわからないと、なかなか着目点が見つらいというところがあると思います。ただ、延べ463事業が全体で言うと33の課に散らばっているのです。調査をかけるのも2週間ぐらいで、それぞれの担当にこれをまとめていただいたのですが、それをそれぞれの担当ごとにフィードバックして、違いを示せというのは現実的に難しいので、これは事務局で、全体の概要がわかるような形で次の分科会までには、概略の御説明ができるように準備をさせてもらいたいと思っております。それで着目点が少し見やすくなるのかなと思っております。

確かに文章でまとめるので、前年と似たような文章にならざるを得ないところは多々あると思うのですが、会長から御指摘いただいているように、それでも変わらないところについては口を酸っぱく言っていたかなければいけないところもあるでしょうし、最初に私が御案内したように、昨年度に取りまとめた冊子をもとに事業課が予算確保にこの冊子を使っていると思えますので、そういった意味では、これはまとめとしては役に立っていると思っております。

全体の総評的な言い方になってしまいましたけれども、あとは大変申しわけないのですが、皆さんには事前に一字一句読んでこいというわけではないのですが、この冊子を見ながら、それぞれの知見に基づく着目点というのは既に去年もやっていますので、それぞれお持ちだと思っておりますので、限られた時間で自分なり、自分の後ろにいる団体の総括的な意見が言えるような御準備をしていただければ、限られた時間でも有効になるのかなと思っております。

○水越会長 よろしいでしょうか。

余り負担にならないようにといたしますか、その上で、これはその場の担当の係長の方なりの知見で私はいいと思います。それを私らが議員さんみたいに問い詰めていくわけではないので、評価点のいいところだけではなくて、課題点もしっかり我々としてはわかりたいので、それを全部上まで通した意見をということになれば大変なことになると思いますから、それこそグループワークなので、その場に出てくる話を大事に我々としても聞きたいと思っておりますので、去年もやっていらっしゃる方ですから、そこはわかった上で、聞いてもらえると思います。

分科会については3つに分かれております。生涯学習は非常に大きいので、それ自体が非常に多面的なものですから、一つのものになっておりますけれども、観光・国際交流というのと比較的近いところがあるということもできると思います。

スポーツと文化というのが文系と理系みたいな感じで全然別なのですが、むしろ委員で区民公募の方以外にはバックがいらっしゃると思うのですが、グループワークのと

きのバックはバックとして、スポーツなのだけれども文化のことをいろいろ言うとか、スポーツと関係ないのだが、スポーツについて言うとか、むしろそれが結構重要なことだと思います。まず皆さんが区にかかわる人であることがベースで、その上で、それぞれの代表等々をなさっていると思いますので、違う部分についてもぜひ積極的に御議論いただければと思っています。

一点だけ私から追加で聞きたいのですけれども、オリンピック・パラリンピックが近づいてきましたね。2020年ですか、ことしは2018年で、我々がやるのは2017年の評価なので今年ではないのですけれども、おとしに比べて去年のほうがいろいろ増えてきたわけですか。これはだんだんふえていくわけですか。オリンピック・パラリンピック系のものは我々が評価する中でだんだんふえてくるのですか。

○日比谷課長 やはりそのとおりで、おとしよりは去年のほうが増えていくし、その形を変えて、幅広くというのもあるし、新しくなってくる。また、近づけば近づくほどいろいろな形にはなっていくということです。

○水越会長 なっていくのですね。わかりました。

○鈴木課長 観光と国際交流の分野につきましても、やはり2020年を意識した事業というものをことし、来年とやっていく予定ではおります。

○竹越課長 オリパラについては、文化プログラムもありますから、全体としてオリパラに向けてそこが上がっていったり、今までやっていた事業がオリパラを意識しながらの文化プログラムだよという言い方になったりという形で事業展開をしていくようになります。

○水越会長 明らかに今後あり得ることは、少なくとも去年の我々の活動について、今年をぱっと見ただけでもわかるのはオリンピック・パラリンピックのことがふえているわけです。それは明らかに去年とは違うことのひとつで、個人的には、これが2020年の後にどうなるのだろうというか、我々は2020年以降をしっかりと考えて、これは大学でもどこでもそうですけれども、お祭りをやるまではいいのだが、その後にするかというのは財政の面でも、大学でも同じだと思うので、ことし、来年はそうなっていくということは、おっしゃったことと言うと一つの着眼点、ポイントかなと思います。

それでは、大体皆さんで概要をおわかりいただく、あるいは思い出していただいたかと思しますので、ここで少し分科会に分かれてという形にしたいと思いますが、これはどうすればいいですか。

○宇民係員 事務局のほうで、各分科会で皆さんとお顔合わせをちょっとさせていただきたくて、田中先生に生涯学習分野の分科会、水越先生がいらっしゃる所にスポーツ・文化芸術の分科会、恐れ入りますが、久松先生のほうは白井委員さんのいらっしゃる側の3つに何となく分かれていただくので、机がマイクの線がひっかからないように動かせれば動かしますし、だめでしたらお椅子だけになってしまうのですが、ちょっと休憩をとっていただいて、その間に事務局で分科会が集まれるようにセッティングをさせていただきます。しばらくお待ちください。

5～10分ぐらいかけさせていただいてよろしいですか。

○水越会長 はい。

そうすると、今は7時半ですので、7時35分か7時40分ぐらいまでにやっていただいて、それから20～30分でいいのではないですか。いきなりやるわけではないですからね。

○竹越課長 今日は、考え方だとか皆さんとの意思の疎通を図っていただいて、7時35分から7時40分ぐらいから大体20～30分程度いただいて。

○水越会長 一応、8時ぐらいまでにそれぞれで、話が深まればもう少し延びてもいいと思うのですけれども、そういうことでいかがですか。

○竹越課長 それでは、8時の段階で一度お声をかけさせていただくということでよろしくをお願いします。

5～10分ぐらい休憩ということをお願いします。

(休憩)

(分科会顔合わせ)

○竹越課長 それでは、お席に戻ってというわけにはいかないのですが、この場で確認をさせていただきます。よろしいでしょうか。

今後のスケジュールについては資料に記載していますが、生涯学習の分科会につきましては6月11日と7月9日。

スポーツ・文化芸術の分科会については、6月5日と7月9日。

観光・国際交流の分科会については、6月5日と7月3日。

いずれも6時半からを予定しております。

会場については、改めて決まり次第御案内をさせていただきます。遅くとも1週間ぐらい前には、御案内ができると思いますのでよろしくお願いいたします。そのときには、それぞれの分科会に私ども管理職がそれぞれついていきますので、先ほど御要望のありました、これまでと変わった点だとか、特に着目していただきたいとか、内容について特に大きく変わった点とか、皆さんに見ていただきたいような特徴などを取りまとめて、まずは話すなり、紙で見ていただくなりして、分科会を進めていただけるようにしたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

最終的には、第2回の協議会ですけれども、7月31日の6時半から、会場はシビックセンターの24階の第一委員会室を予定してございますので、6時半になりますと、24階に行くためには非常用のエレベーターしかないものですから、わからない場合には職員におたずねください。

本日の資料なのですが、基本的にはお持ち帰りいただきたいと思っておりますが、ちょっと荷物になってしまうので、持って帰れないという場合には、資料の上に皆さんの名札を置いておいていただければ、うちでお預かりをいたします。よろしくお願いいたします。

計画の冊子は、また次回用意いたしますので、自分で既に記載とかしているから自分の

ものを持ってくるという方はそれで結構ですが、持ってこなくても私どもで用意しますのでよろしくお願ひします。ただ、きょうお配りした資料の調査結果は、それを使いますので恐縮ですけれどもお持ちください。

説明は以上でございます。

○水越会長 ありがとうございます。

それでは、きょうはこのままで解散ということにしたいと思います。

2回の分科会、それぞれでどうかよろしくお願ひいたします。

これで終わりにしたいと思います。

○竹越課長 ありがとうございます。

閉会